

6) 緑化木の病虫害に関する調査研究

辻本悟志¹

キーワード：フクギノコキクイムシ ソテツシロカイガラムシ ギンネム 薬剤防除試験

1. はじめに

観光産業が盛んな沖縄にとって、沖縄らしい景観の形成に重要な役目を果たす緑化木の健全な育成は重要である。

近年、フクギやソテツ等の伝統的景観木への穿孔性害虫・吸汁性害虫が確認され、特にソテツの吸汁性害虫、ソテツシロカイガラムシについては、世界各地で問題となっている。沖縄県全域においても被害が確認されており、複数種の防除薬剤の効果を実証することが重要である。そこで本調査では、沖縄らしい景観の保全を目的に、フクギの害虫の随伴菌の種構成等についての調査とソテツ等の害虫に対する薬剤防除試験を実施した。

2. フクギノコキクイムシ

フクギノコキクイムシ *Cryphalus garciniae* は、フクギの枝に穿孔する樹皮下穿孔性キクイムシである。樹皮下穿孔性キクイムシは一般的に病原菌を随伴し、枝枯れや宿主樹木の枯死を引き起こすこともあることから、フクギノコキクイムシによる枝枯れと落葉においても随伴菌が関与している可能性がある。そこで、フクギノコキクイムシが穿孔している枝と葉を健全木から採取し、Masuya et al. (2012) に準じた方法で随伴菌を分離したところ、様々な樹木の胴枯れを引き起こす病原菌が枝内の坑道内からも分離されたが、分離頻度は低かった。

尚、本研究は、令和5年度公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会の助成を一部受けて実施された。

3. ソテツシロカイガラムシ

ソテツ *Cycas revoluta* は、沖縄県では学校や公園等に植栽され、あるいは野外に自生している常緑低木である。令和5年に、国頭村内の公園内等において、*Aulacaspis yasumatsui* (ソテツシロカイガラムシ) が発生し、葉の褐変などの被害が確認されている(川口ら 2024、写真-1)。そこで、ソテツシロカイガラムシの防除を目的に、薬剤効果試験を実施した。

今年度は、株元灌注剤1薬剤と散布用薬剤1薬剤を用いて、ソテツシロカイガラムシの幼虫に対する効果を確認した。次年度以降に本薬剤の適用拡大を

目指す。

尚、本研究は、令和6年農林水産省委託プロジェクト(J012712)の一部として実施された。



写真-1 大宜味村でソテツシロカイガラムシによる被害が確認されたソテツの被害木

参考文献

- 1) 川口エリ子・米森正悟・坂巻祥孝・高木貞夫, 2024. 奄美大島でみられたソテツシロカイガラムシ(新称)(半翅目:マルカイガラムシ科)の同定とソテツの被害発生状況. 樹木医学研究 28: 3-9.
- 2) Masuya, H., Kajimura, H., Tomisawa, N., & Yamaoka, Y. (2012). Fungi associated with *Scolytogenes birosimensis* (Coleoptera: Curculionidae) infesting *Pittosporum tobira*. *Environmental entomology*, 41(2), 255-264.

4. 外部評価委員会コメント

病虫害防除技術研究の実用的な効果について目的が明確であり、応用性も高いと思われる。研究発表はかなりの成果を上げており、今後もより努力されたい。産業との結びつき、実用的応用例など、具体的な検証も試みるよう期待する。

(池田顧問：琉球大学名誉教授)

¹植物研究室